

# 反改憲運動

## 通信 第5期

1部 200円

2009. 9. 2

No. 07/08

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-1-18 近江ビル4階

Tel. & Fax. : 03-5275-5989

E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org

Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>

年間定期購読料 4,000円 (2009. 6~2010. 5)

郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

## 「チェンジ(交代)」幻想にまどわされぬ反「改憲」運動へ!

今日(8月27日)の『朝日新聞』1面の大見出しはこうだ。  
「民主、320議席獲得も」「自民激減100前後」。選挙前説論調査は、のきなみ、民主党300議席で圧勝の予想であったが、選挙目前になればなるほど民主党の風は強くなるばかりのようだ。この通信が読者に届く時には、自公政権から民主党中心の政権の「チェンジ」は、ほぼまちがいに完了しているであろう(それも民主党単独過半数の勢いで)。

私(たち)も、この政権交代を、とりあえず歓迎しないわけではない。しかし、反改憲という立場で考えても、民主党(鳩山政権)に、なんら幻想を持つことは許されないことはいうまでもあるまい。九条平和主義を破壊し、天皇制を強化しようという改憲プランを持った人物なのだ、鳩山は。この点においては自民党政権と基本的に同じなのだ。だから、この鳩山政権への「チェンジ」は、私たちににとっては「チェンジ」ではまったくないのだ。

麻生政権は憲法審査会規定を衆院では採決し、ひそかに明文改憲の動きを加速した。こうした改憲の動きは民主党の「新しい」チェンジしたスタイルで加速されだすという可能性はあるのだ。

麻生政権は、首相の私的諮問機関である「安全保障と防衛力に関する懇談会」に報告書を提出させた(8月4日)。その内容は予想どおり、安倍首相下の「安保法制懇」報告を引きついで「集団的自衛権」の容認に踏み込んだものであった。そういう方向での日米軍事「同盟」の強化をうちだしたものである。(解釈改憲の完成!)。民主党政権になってこの報告書が政策化されるかは「不透明」と、マスコミは論評している。「不透明」とは状況次第で、こういう方向へ民主党政権が突き進む可能性は否定できないということだ。

8月16日の『朝日新聞』は、民主党が政権交代をにらんでの「靖国」問題についての態度変更を、このようにつたえている。

「首相の靖国参拝に反対する民主党が、その理由に掲げてきた『憲法の政教分離原則への抵触』を、鳩山代表ら執行部の判断で09年版政策集から削除していることがわかった。総選挙後の政権交代を見据え、公式参拝を条件付きで認める従来の政府の立場との整合性などをめぐる混乱を避けるためとみられる。」

これは民主党は、キチンとした政教分離の原則に立つ憲法を尊重しようという立場を自民党同様に、すでにくずしてしまっていることを示している。そして、8月19日の『朝日新聞』の「社説」にはこうある。総選挙の論点として、新たな国立の戦没者追悼施設をつくるか否かという問題が浮上した。「口火を切ったのは民主党だ。鳩山代表が党として取り組む考えを表明し、候補地として、靖国神社にほど近い国立の千鳥ヶ淵戦没者墓苑をあげた。／共産党や社民党も前向きだ。与党の公明党も、かねて新たな追悼施設の建設を主張している。」

さらにこの社説はA級戦犯が合祀されて以降、靖国神社へ「昭和天皇も現天皇も……参拝していない」という事実につれ、「新たな施設の建設しかない」と論じ、こう主張している。

「参考になるのは、小泉内閣時代の02年に、当時の福田康夫官房長官の私的懇談会が出した報告書と、山崎拓・自民党元幹事長ら超党派の有志議員が06年にまとめた提言である。」

この社説のタイトルは「今度こそ実現させよ」である。あの靖国神社参拝という違憲の行為を繰り返した小泉の、そして政権なげだしの福田の私的懇談会の報告が、よみがえるのであろうか。戦争に人々をかりだすための施設をもう一つつくることに、どんな意味があるのか。ここにも民主党の平和憲法破壊のコースが明示されている。私たちは民主党だから「実現」しやすい悪政に対抗する思想と運動をこそ目指さねばならない。

(天野恵一／事務局)

5歳の子どもが突然「釣りがしたい」と言い出したので、千円の道具セットを買って、ある沼に行ってみた。初心者にもかかわらず、まさに入れ食い状態で、子どもは大喜び。大満足でみな持ち帰った。▶家で魚の名前を調べてみると、全て「ブルーギル」であると分かった。この外来種は国内の在来種を食って繁殖する害魚で、漁業へのダメージや駆除費用はかなりものらしい。各地の自治体では、釣ったブルーギルの再放流や生き

# 憲法喧嘩

たまの移送・飼育を禁止し、違反者には懲役や罰金などの罰則もあると知った。▶この外来種が日本に入ったのは、1960年に当時皇太子であったアキヒトが、食用や釣り用にとアメリカから持ち帰ったためだという。そのことをアキヒトは、2年前の琵琶湖での海づくり大会で白状した。▶彼のおかげで、私たち親子も違反者にされるところだった。楽しかった時間にケチを付けられたようで腹立たしい。(なすび)

## ようこそ!「ハンテン展〈まつろわぬ者たちの祭〉」へ!

〈天皇即位20年奉祝〉に異議あり! え〜かげんにせーよ共同行動は、まつろわぬ者たちが大集合する楽しくも興味深い〈祭〉を、9月6日、開催する。

天皇が「即位」して20年目という今年の11月12日を「祝日」とする法案は、7月の麻生政権最後のガタガタのなかで廃案となったが、この法案が再度すぐに上程され可決される可能性は、残念ながら濃厚だ。また、さまざまなことがひしめき合っただけで起こったこの20年のすべてが、天皇の20年によって替えられてしまう、そのような「天皇の20年」賛美報道が始まるだろう。それは、あらゆる社会的・個人的なことどもが、天皇中心にまとめ上げられたり、忘却の彼方に押しやられる瞬間ともなるのだ。

「天皇の側が“20年、20年”と仕掛けてくるのであれば、私たちもその20年についてきちんと出してやろう▼この20年は21年前と当然つながっているし、決してそこでリセットされているわけでもない▼ということも前提に、この20年間、どのような年であったのか、多様な展示物、表現を通して▼20年前に至るまでの歴史、この20年の結果としてある現在、いろんな20年のとらえ方を試み、共有したい」。

私たちのこの呼びかけに応じて、アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」、ビデオ塾、昭和天皇記念館・文京区民別館実行委員会、「日の丸・君が代」の法制化と

強制に反対する神奈川の会、琉球センター・どうたっち、フリーター全般労組、たなかさとしさん、狐プロジェクト、小倉利丸さんが、それぞれの課題と表現方法で展示会を主催してくれる。トークコーナーでは赤石千衣子さん、池田恵理子さん、井上森さん、K介さん、小山さん、島袋陽子さん、戦闘的ゴジラ主義者さん、田中宏さん、田野新一さん、渡辺厚子さんが、「まつろわぬ者たちの20年」あるいは「まつろわぬ宣言」として、決して天皇に回収され得ない私たち固有のさまざまな課題や「何か」を短いトークで語りつないでくれる。街頭における抵抗としての表現を先駆的に試み続けた個人共闘〈秋の嵐〉のビデオ上映とトークもある。また、パフォーマンスに「野戦の月」海筆子の森美音子さん、音楽に五十嵐正史とソウルブラザーズを迎える。

この盛り沢山なハンテン展〈まつろわぬ者たちの祭〉をとおして、表現とその多様さを楽しみながら、歴史はもちろん、私たちの文化や言葉や「思いをいたす」ことが、天皇とは無関係にあることを感じたりしたい。とにかくたくさんの方の〈まつろわぬ者〉たちが、語り、表現し、歴史や課題を見せる場をつくるために、この東京の片隅に集まってくるのだ。ぜひこの場を共有してください! (桜井太子/反天皇制運動連絡会)

▶9月6日(日)11:30~19:00 ▶500円

▶文京区民センター(地下鉄都営三田線春日駅すぐ)

## 「派兵国家の20年を問う◇9・12派兵チェック総括集会」に参加を!

湾岸戦争後(1991年)の掃海部隊のペルシャ湾派兵によって自衛隊海外派兵の幕が切って落とされた。翌年には、初の派兵法であるPKO法が成立、カンボジアへの本格的な派兵が行われた。以来、約20年間わたり、国連枠での比較的小規模なゴラン高原、モザンビーク、ルワンダ、東チモール等への派兵から、対テロ戦争参戦のイラク、インド洋(アフガニスタン)への長期大規模派兵へと拡大を続けながらひっきりなしに継続され続け、この7月には、恒久派兵法の先取りともいえる海賊対策新法までつくられ、ソマリア沖への派兵も始まった。

この間に、海上自衛隊では、強襲揚陸艦「おおすみ」や上陸用舟艇LCAC、ヘリ空母等、また航空自衛隊では空中管制機AWACSや空中給油機といった海外遠征用兵器の配備、陸上自衛隊には、中央即応集団など派兵専門部隊の創設といった、自衛隊の海外派兵軍化が急速に進められてきた。自衛隊法でも海外活動が本来任務に格上げされ、防衛庁は省になり、派兵を可能とする特措法の策定だけでなく、周辺事態法、武力攻撃事態法さらには国民保護法など戦争のできる国家とするための国内法がつぎつぎに整備された。

それらをリードしたのは、日米安保体制=日米軍事協力体制の強化・発展であることは間違いがない(この間に、日米安保共同宣言、新ガイドライン、米軍再編がすすめられた)。

1992年8月にPKO法に反対して国会では、社会党の議員を中心とした牛歩戦術での抵抗が行われ、国会議員面会所には、連日・連夜、自衛隊派兵に反対する多くのひとびとが詰めかけた。そうした動きのなかから「派兵チェック」は始まった(1992年9月に第1号)。それから17年、「派兵チェック」は、経済的な事情により、終刊(2009年12月予定の200号で)がやむなくなった。派兵チェックの活動を終えるにあたって、派兵国家の20年の歴史を総括する集会を持つことにした。

エスカレートする海外派兵の実態だけでなく、この「海外派兵の20年」が、自衛隊にもたらしたもの、さらには、日本社会にもたらしたものを検証する。報告者とテーマは、「派兵国家の20年と日本社会の変貌」(太田昌国さん)、「海外派兵軍化で軋む自衛隊——この20年は自衛隊員に何をもたらしたか」(木元茂夫)、「国連派兵から日米共同軍事行動へ」(池田五律)である。ぜひ参加して下さい。

(梶野宏/派兵チェック編集委員会)

### ..... 派兵国家の20年を問う——派兵CHECK総括集会

日時: 9月12日(土)18:00 開場/場所: 文京区民センター [3F] (都営地下鉄三田線春日駅すぐ)/主催: 派兵チェック編集委員会(FAX: 03-5275-5989)



## 沖縄に基地はいらない ジュゴンの行進! 9.12行動に集まれ

「辺野古への基地建設を許さない実行委員会」は来る9月12日(土) 午後1時に「沖縄に基地はいらない ジュゴンの行進!」デモを予定している。約700名を集めた防衛省「人間の鎖」行動(過去2回)と同様に、今回は法の精神をないがしろにして強行している辺野古・環境影響評価に異議を唱え、ジュゴンやサンゴや生物多様性を護れと新政権や環境省に訴える。防衛省前抗議行動、人間の鎖行動、国会請願署名等に参加し辺野古に基地を造らせてはならないと考える皆さん、9月12日には是非いっしょに銀座を歩き、税金を使って環境を破壊して新たな米軍基地を建設しようとしている日本政府の愚かさを強く訴えよう。できればジュゴンを表現するグッズや抗議アピールを持って来てほしい。辺野古実でもジュゴンバルーンやジュゴン横断幕やジュゴンハットなどを用意する。

「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価」は、多くの問題を抱えた「準備書」の公告・縦覧が終わり、現在沖縄県環境影響評価審査会で審議され、10月には知事意見が出されようとしている。が、そうは問屋が卸さない。この環境アセスメントは、事前現況調査をするなど開始時から数々の問題点を抱えアセスメント法の精神をないがしろにして沖縄防衛局が強引に進めてきている。本年5月には準備書に対して専門家の指摘を含めて計5,317通の意見書が出た。この8月19日には、方法書および準備書の作成やり直しを訴

え、意見陳述の機会を奪われたことに対する国家賠償を請求して342名の原告団が提訴した。今、脱法的環境アセスメントにNOを、アセスメントやり直しを、広く訴えることが重要である。

当初の地元の強い反対にもかかわらず、自公政権によるアメとムチの政策により多くの地域で首長が基地建設を受け入れようとしている。それでも、普天間移設・辺野古基地建設は止められる。8月末日で1960日に達する座り込み、名護住民投票、沖縄県議会決議、県民世論調査が示すように、沖縄の人たちは県内への基地建設を認めていない。非核三原則をはじめ日米安保条約に係る半世紀以上に渡る日米両政府の密約の数々が明らかになってきた。「グアム移転協定」の国会審議では、日本は米国の属国かと思わせる非対称性が明らかになり、オスプレイにまつわる両政府の協議などは新たないくつもの密約締結をも疑わせた。名護市長選、生物多様性条約第10回締約国会議、県知事選なども控えている。何としても、新政権に米軍再編を見直しさせ、米国追従外交をやめさせ、辺野古への基地建設を止め、数々の密約で国民をだまし続けて維持されている日米安保条約の廃棄につなげていきたい。

9月12日(土)3時に水谷橋公園に集まってください。

【詳細は8面の「集会・行動予定」に掲載】

(木村雅夫／新しい反安保行動をつくる実行委員会)

## 9・19「アフガニスタンに緑と生命を」ペシャワール会現地報告会へ

8月20日、アフガニスタンでは大統領選が行われた。しかし米軍、ISAF(国際治安支援部隊)による占領下にあり、「タリバン掃討」作戦を名目に住民殺害がやむことなく続いているアフガニスタンで、大統領選挙によって平和と安定が訪れると考えている人は少ない。事実、新生タリバンが実効支配している同国南部では投票所さえ設置されないところが多く、首都カブールでも自爆攻撃があいついだ。

イラクからの戦闘部隊の撤退を公約した米オバマ政権は、アフガンでの「対テロ」作戦強化を宣言し、21,000人の米軍増派を打ち出した。オバマは8月17日の退役軍人団体合会での演説で「これは必要不可欠な戦争だ。タリバンを野放しにすればアルカイダが隠れ場所を広げ、そこから米国民を攻撃する」と、改めて戦争遂行の決意を語った。しかし8月25日の段階で、今年になってからのアフガニスタンでの外国兵士の死者は295人に達し、2001年以後の年間死者数の最高を早くも突破した。8月23日、米軍のマレン統合参謀本部議長は、アフガンの治安情勢が「深刻で、しかも悪化している」ことを認めざるをえなかった。

アメリカ国内でも厭戦気分が高まっている。「ワシントンポスト」が8月19日に発表した世論調査では、米国はアフガンで戦う価値がない、と考える人が51%と過半数を超え、前月比6ポイントも増加した。すでに欧州諸国でもほとんどの国で、アフガンからの撤退論が多数となっている。それで

も「対テロ」戦争にしがみついた米国の支配層は、戦場をパキスタンにまで拡大し、いっそうの泥沼にはまりこもうとしている。

小泉以後の自公政権は、アフガニスタンでの戦争を支援するために自衛隊をインド洋に派兵した。アメリカは、危機の深まりと共に日本政府に対して陸自の派兵をふくむいっそうの「貢献」への圧力をかけようとするだろう。民主党を軸とする日本の次期政権はどのような態度を取るのか。それは私たち自身の問題である。

戦争による国土の破壊、農業の荒廃、難民の増大。戦争と占領が平和をもたらさないことは当たり前のことだ。昨年8月、アフガニスタンでの農業支援活動に献身していたペシャワール会の伊藤和也さんが殺害されるという悲劇が起った。しかしペシャワール会の現地代表・中村哲さんはアフガニスタン現地で活動は継続し、確実に大きな成果を上げている。中村さんたちの活動でよみがえった耕作地は、「平和への希望」を灯している。

World Peace Nowは9月19日(土)に「武力で平和はつぐれない アフガニスタンに緑と生命を」と題して「ペシャワール会現地報告会」を開催する(午後1時半 開場/社会文化会館ホール[地下鉄永田町駅下車])。中村哲さん(あるいは福元満治事務局長)が講演する。ぜひ参加を。

(国富建治/事務局)

## 報告◆ヘイトスピーチは許せない! 8・14討論会

8月14日、私たちは公開討論会「ヘイトスピーチは許せない!『行動する保守!?!』にどう向き合うか」を開催した。実行委にはこの4月「生きることは犯罪じゃない in わらび行動」を呼びかけた「外国人排除デモに反対する会」、当日行動参加者、そして自称「行動する保守」による露骨な排外主義とそれを許容する風潮を憂慮しアクセスしてきた新たな仲間たちが合流している。

埼玉県蕨市でのフィリピン人一家を標的とした悪質な「追い出しデモ」以降も、「行動する保守」運動を称する在日特権を許さない市民の会(代表・桜井誠)、そして主権回復を目指す会(代表・西村修平)ら維新政党・新風につらなる街宣右翼らは「外国人参政権反対」を旗印に全国各地で精力的にデモを行なっている。「わらび行動」は2名の逮捕者を出し、その行動の稚拙さ拙速さを運動内部からも厳しく問われる結果となった。にもかかわらず京都、大阪、福岡など各地で次々と「排外主義反対」「反・在特会」のデモンストレーションが取り組まれた。6月13日京都では広く署名とメッセージを募り700名以上もの賛同を得て対抗デモ、そして街頭での圧倒的な抗議アクションを敢行した。7月18日大阪・鶴橋では、緊急の呼びかけにもかかわらず地域へのビラまき情宣と対抗デモが貫徹された。7月20日福岡では「排外主義によく効く表現行動」と銘打ちこれも街頭できっちりと排外主義者たちを迎え撃った。全国の仲間たちが声を挙げ、排外主

義、ヘイトスピーチを見過ごしにしないという意味をはっきりと行動で示した。こうした流れの中で蕨以前から標的にされてきた人々——集会やデモ妨害、ネットなどでの中傷、組織的な電話・メールなどの攻撃を受けてきた被害経験者たちの姿が少しずつ見えてきた。

8月14日の集会では、まず第一部は各地で抗議行動を起こした仲間が初めて一堂に会す場として設定した。そして第二部は可能なかぎり被害経験者から報告をもらうこととした。6時間という長丁場ではあったが、予想していた以上の参加者が足を運んでくれた(実行委含め約230名)。私たちがもっとも杞憂していた事態——この集会が、自称「行動する保守」らによる外国籍の人々や支援者らへのさらなるセカンドレイプの場になってしまうこと——もかろうじて避けられた。在日韓国朝鮮人の青年たち、移民労働者支援の人たち、集会直前に起こった三鷹市「慰安婦展」への3日間に及ぶ常軌を逸した攻撃を受けた主催者や同じく富山「慰安婦展」の関係者、婚外子差別など実行委側が想定していなかった被害当事者の発言などが会場から相次ぎ、問題の底深さを確認しあう場となった。この日私たちは「初めて出会った」。排外主義を封じ込めるために、今後どのような連携を生み出せるか。それが私たちの次なる課題である。

(K/814集会実行委:

<http://livingtogether.blog91.fc2.com/>)

## 報告◆8・15靖国国営化阻止東京集会

「第36回靖国国営化阻止8・15東京集会」は「靖国祭神名簿から家族の名前を取り戻せ——祭神名簿削除請求訴訟の現状と課題」のテーマのもと、講師に「ノー! ハブサ」訴訟弁護団の大口昭彦弁護士を迎え、100余名の参加者で開催されました。

「ハブサ」とは「(靖国神社祭神) 合祀」の韓国・朝鮮語読みです。

祭神名簿削除請求訴訟とは、2007年2月26日、父親が日本軍人・軍属として強制動員され故国を遠く離れた戦地で戦没し靖国神社に合祀されている遺族10人と、生還したにも拘わらず戦没したとして靖国神社に合祀されている元軍属1人が、無断合祀の取り消しと謝罪及び1人「1円」の慰謝料の支払いを求めて靖国神社と国を相手取り東京地方裁判所に提訴している訴訟です。

講演では、大口講師より懇切な「ノー! ハブサ」訴訟の解説が行われた後、会場との質疑応答が行われましたが、民主党が打ち上げた「国立戦没者追悼施設」建設問題に関する質問も出されました。この施設建設は、ヤスクニ問題を隠蔽し、新たな「顕彰」施設になる可能性が非常に高い施設になることを認識しておく必要があると思います。

集会は、水道橋にある「在日韓国YMCA」を会場に行なわ

れたのですが、その地は、1919年2月8日に「2・8独立宣言」が発表されたところです。この会場に、集会の途中、街宣車が横付けされ「不逞台湾人出て来い!」「国賊サヨク集会を中止させるぞー!」などの聞くに耐えない罵詈雑言をガナリたて始めました。「不逞台湾人出て来い!」と言われても、当該の方々はすでに、帰台されていたのですが。

「不逞台湾」とは、8月11日に靖国神社の拝殿前で、高金素梅さんをはじめとした50名近くの「還我祖霊(我らに祖霊を返せ)団」が「ヤスクニ・NO!」声を挙げるとともに「葬送曲」を高らかに歌った非暴力直接行動に対して、右翼は聖域を犯されたとえらい剣幕で、怒っているわけです。

なお、11日の「還我祖霊団」行動に関しては「祖霊団隊率隊首度突入靖国神社成功」などのタイトルでyoutubeで検索して頂ければ、台湾の放送局(?)の画像をご覧いただけると思います。

この右翼の街宣行動に関して「在日韓国YMCA」でも、何度か右翼の街宣行動が仕掛けられたことがあるが、街宣車が横付けされ、運転手が車を離れた「停車」状態で行なわれたことは初めてであり、乱闘服の右翼が会場に突入しようとした事態も初めてのことでした。

(辻子 実/日本キリスト教協議会靖国問題対策委員長)



## 報告◆自衛隊戦死者の合祀・慰霊・顕彰制度の確立を阻止しよう! ——異議あり!「全国戦没者追悼式」8・15大阪集会

私たちは8月15日、大阪では初めて、政府主催の「全国戦没者追悼式」反対集会を開いた。それは何よりも、天皇が出席する唯一の皇軍将兵追悼国家式典が自衛隊戦死者の合祀・慰霊・顕彰の制度的確立に向けて、靖国神社とともにいっそう重要な役割を担うのではないかという危機感に基づいていた。事実、民主党は8月13日、政権を獲得した場合、靖国神社に代わる新たな国立戦没者追悼施設の建設方針を固め、自衛隊戦死者の合祀・慰霊・顕彰の制度的確立に動き始めたのだ。

シンポジウムのテーマは「靖国思想を裁く」で、最初にビデオ「考えてみよう靖国問題」上映。発題は古川佳子さん（真面忠魂碑違憲訴訟原告／靖国合祀イヤです訴訟原告）の「戦死した兄たちと現在——ヤスクニ・天皇制・日本遺族会」、黒田伊彦さん（部落解放・人権研究所反差別部会副会長）の「神にされた者とされなかった者——部落差別と靖国思想」、山本浄邦さん（僧侶／「憲法二十条が危ない！緊急連絡会」代表）の「憲法二〇条改悪と戦没者追悼儀礼強化」で、3人とも過去ではなく、現在への危機感でいっぱいであった。古川さんの発言を簡単に紹介する。

——2人の兄が戦死した。残ったのは3人姉妹。2人の男子を皇軍に取られた母親は「これに増す悲しきことの何かあらん 亡き子二人を返せこの手に」と詠った。下の兄

がいた筑波116部隊に竹内浩三がいた。竹内は「ああ戦死やあわれ 兵隊の死ぬるやあわれ こらえきれないさびしさや 国のため大君のため死んでしまうや その心や」と詩に残したことは知られているが、戦場での手帳の裏に「赤子 全部をお返しする」と書き残している。私は、母の「涙の壺」を抱えた深いかなしみと怒りにいざなわれ、竹内浩三と自分の兄たちを重ね合わせ、兄たちと、また同じ思いで死んで行っただろう兵士たちへの思いを深くした。同時に自らも加害の側にいたことに気付いた。それは、国の責任を追及する忠魂碑違憲訴訟の原告につながった。

忠魂碑・護国神社・靖国神社は一体である。05年、李熙子さんといっしょに靖国神社へ合祀を取り消せと要求に行った。が、靖国は一切応じない。そのとき靖国と正面から向きあうことを決意した。今、合祀取り消し訴訟で靖国神社と闘っている。——

集会は、自衛隊戦死者の合祀・慰霊・顕彰の制度的確立を許さず、今後も靖国神社と全国戦没者追悼を弾劾し続けることを確認した。この集会に「アキヒト天皇制20年＝『戦争国家で安心安全』を問う8・15行動」実行委員会（東京）、「祝わないぞ！『天皇即位20年式典』反対」実行委員会（札幌）、京都「天皇制を問う」講座実行委員会から連帯アピールが寄せられた。（藤岡正雄／「天皇即位20年」反対！大阪行動）

## 報告◆中国人強制連行受難者を追悼し、問題解決を求める8月行動

在日朝鮮人、在日中国人、日本人の共同による中国人強制連行受難者の遺骨発掘が1949年に秋田県花岡で開始されてから60年目の夏、日中仏教界による合同法要が8月8日催された。花岡受難者联谊会など11の事業所に連行された生存者・遺族による各联谊会より70名が来日。ヤスクニ・キャンドル行動へ参加する台湾の一行50名余も「兩岸の戦争被害者が手を携えて歴史問題の解決を求めよう！」と行動をとともにした。

8日午前中は都内で日本の仏教界と実行委員会の共催による「世界平和祈願 中国人俘虜殉難者慰霊大法要」が厳かに営まれ、駐日中国大使が追悼の辞を献じ、外務大臣名の花輪も捧げられた。午後、中国訪日団の一行は、上野水上音楽堂の「コンサート&証言」へ合流。日韓のアーティストで盛り上がる舞台の合間には訪日団からの連帯挨拶も。台湾・飛魚雲豹音楽工団のステージは集団が生み出す声音の迫力に圧倒される。

キャンドルデモは3梯団およそ500名、先頭から日本、台湾・中国、韓国、最後尾はキャンドル主催者らが固める。「ヤスクニ NO!」「還我祖霊／カンウォースリン」「日本政府必須賠償／リーベンチャンフピーシーペイチャン」「合祀を取り消せ」と日・中・韓のシュプレヒコールが、アジア人観光客も多いアメ横界隈を席捲した。

翌9日は、芝公園で生存者・遺族自身による追悼行事。

6,830足の靴を並べ（中国では亡くなった人に家族が手縫いの靴を履かせて葬送するが、靴をはかせられなかった）、11事業所の受難者の位牌を安置、天津に建つ受難者名を刻んだ碑の拓本を掲げる。ヤスクニ行動を共にした韓国の大学生ら40名近くも献花に訪れた。黙祷、読経、献花、胡弓演奏、中国・台湾参加者の曲技・歌曲、追悼挨拶……と1時過ぎに式次第を終了。

最終日10日、強制連行当該企業2社と交渉。11時過ぎから土砂降りのなか国会前で「還我祖霊」とこぶしを挙げる台湾団の隣に「日本政府必須賠償」と中国の一行が合流。その後台湾の一行は宿舎へ。中国の生存者・遺族は社会文化会館で決起集会後、強制連行の問題解決を求め国会請願行動。最高裁へ抗議の声を上げ、「主権を回復する会」とやらの罵声を黙殺し参議院議面で社民党・近藤正道議員に請願を提出。外務省協を通過して日比谷公園までデモ行進。その頃、外務省アジア大洋州局審議官と面談した11の联谊会代表が首相宛要望書を提出していた。86歳超の生存者2名を含む中国の一行は11日無事帰国した。

※中国人強制連行とは：戦時中、政府・軍・企業が一体となって中国人約4万人を強制連行し、日本国内135事業所で酷使虐待した。僅か1年余で6,830人（外務省調べ）が殺された。

（川見一仁／中国人強制連行を考える会）

## 報告◆大地の芸術祭(越後妻有)、そして富山妙子の全仕事展

「富山妙子の全仕事展」が大地の芸術祭(越後妻有アートトリエンナーレ)で開催されている。この全仕事展が「大地の芸術祭」に組み込まれたことが興味深い。「大地の芸術祭」とは何か、公式ガイドにあるコピーを引用する。

「日本の原風景、里山と現代アートが出会った!▼760平方kmにわたる新潟県の越後妻有地域で、2000年から3年に一度開かれている国際展▼米づくりを生業とする豪雪地帯、人々は年をとり、若者は土地を離れていく▼それでも、アートの力が空家や廃校など、置き去りの場所を蘇らせる▼暮らしに息づく知恵を見直す」

300以上の現代アート作品の多くが、その地に呼応する形で制作され展示されている。さまざまに痛めつけられた中山間地域を元気にするというコンセプトで、廃校や廃屋が作品に使われているものも多い(富山さんの展覧会の会場も廃校になった小学校だった)。産業社会の中で、まるでいらないもののように扱われてきた中山間地域の尊厳がアートをめぐるさまざまなできごとの中で甦る。ほとんどの作品はこの場所と呼応して作られている立体作品だが、富山さんの作品だけが60年という時間軸の中で、ほぼこの地域とは無関係に作られたものだ。しかし、この展覧会の意図から外れていない。

大地の芸術祭「開催にあたって」に以下のようなことも書かれている。「地球環境の危機、資本主義の隘路を迎えてい

る現在、私たちにできることは多くの労苦と数限りない踏分道の前に、土地の力を指針として生活してきた先祖、地域に深く入りこみ、そこで学び、生きること。個々の人間の全的活動、内的本性の発現を促すことしかありません。美術はそのための方法です」

これも美術の定義のひとつだろう。そんな場所で、アートと社会・政治の緊張関係の中に自らをさらし、芸術がもつ意味を問い続け、作品を生み出してきた富山さんの全仕事展が行われている。この展覧会を富山さんは「人生の総括」と呼び、ここで「わたしは新しい芸術の夢が描けそうだ」という。廃校のイメージからは遠く離れた、まだ新しい小学校の校舎に富山さんの平面の作品群が無造作な感じで並べてある。おそらくは社会的なテーマを追い続けたというのが大きな理由で主流のアートシーンから排除されてきた彼女の全仕事、ここにある。

2001年10月に開催された富山さんの「蛭子と傀儡子」船出のパーティーの呼びかけには「地球環境が破壊され、芸術は役割を見失っていた時代に、豪華船『タイタニック号』から降りて、小さな船で、芸術が祈りであり、魂と魂を結ぶメディアであることを求めて船出する」、というようなことが書かれていたという。その小さな船はいまも波に揺られながら進み続けている。(つるたまさひで／原爆の図・丸木美術館理事、ピープルズプラン研究所運営委員)

## 憲法を読む◎『それでも、日本人は「戦争」をえらんだ』

加藤陽子／朝日新聞社刊／1,700円+税

東京大学で近現代史を講じている加藤さんは、専門課程になってから受講している学部生、院生がこれを学ぶのでは遅いと日ごろ痛感していたそう。それで朝日新聞社の企画に協力して実現した、神奈川県私立「栄光学園」の歴史部の生徒を対象として5回にわたった講義の記録を、さらに整理し工夫を加えて成った若人向けの書です。

中高校で近現代史をちゃんと教えていないということをよく聞きます。日本の「入試対策教育」のせいもあるし、「学習指導要領」で縛る政治的理由もあるでしょう。でもこの本を読むと、現場の歴史の先生自身が近現代史を学習してこなかったことも大きいと感じます。加藤先生の授業を受けていれば……と、つい思いますが、まあ、私が高校生でこの講義を受けても、ぼんやり他のことを考えていたに違いありません。栄光学園のエリートたちはさすが優秀な受講生で、よくついていきます。

中高の歴史の先生の不勉強もあるでしょうが、加藤先生は私たちに新旧の史料を次々に示し、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、満州事変と日中戦争、太平洋戦争の順に、かなめかなめに光を当ててくれます。情報公開が進んで特に近現代史はかつての知識だけではだめで、学びなおさなければならぬことを強く感じます。そして、もちろん加藤先生は、結論を生徒に押しつけるような愚はしないで、講義を受けて、

一人ひとりがどうして日本国はこういうふうな道を辿ることになったかを考える仕掛けになっています。

これまでも軍部が暴走した経緯は語られてきていましたが、この書では、時どきの世界の動きとその分析がより多く見られます。列強といわれた西欧の国々に、いかに自国の利益を追求しつつ、国際的新秩序をつくっていったか、新史料で明かされ、国際情勢の見方が示されています。その世界の動きを無視した日本国軍部は、強引な膨張方針のために、綿密に周到に国内操作を行いました。それを可能にしたのは「農村の貧困」と「国意識」だと示されています。

個人主義や自由主義への理解が西欧人よりも薄く、「国家の独立」を優先する傾向が強い、との吉野作造の言葉を一つの重要なキーワードとして紹介しています。根強く浸み込んだ「クニイシキ」がいくつもの無謀な戦争を引っ張る原動力の大きな要素だったとわかると、現在の「フツの国へ」に通じる暗い流れを思わずにいられません。いま、拡がる格差と貧困や排外主義が戦争参加への道に近づく傾向としてすでに見えています。関わっているのはこの国の人全員です。

歴史学習のためにこのわかりやすく鋭い教科書をおすすめします。表紙に「日本近現代史の最前線」とあります。

(事務局／梶川凉子)



# 反改憲ニュースクリップ

09年8月1日～8月25日

## 「勝ちすぎ」民主党の ゆくえは……

【8月1日】〈どうする社民〉インド洋での海上自衛隊の給油活動や非核三原則をめぐる民主党とのスタンスの違いが表面化するなか、社民党支持者のなかには民主支持へのためらいものぞいている。支持者からは「信念を曲げると、さらなる党勢衰退を招く」との不満が漏れる。旧社会党は、自民党と連立した村山富市内閣で自衛隊容認など基本政策を転換したことを機に衰退した。「社会党は政権与党に目がくらんだ結果、護憲の党としての存在意義を失った。今回もわずかな譲歩から民主にのみ込まれ、かつての二の舞になるのが怖い」という声が、党内からあがっている。〈拉致問題政治利用〉麻生太郎首相が地方遊説のさい、蓮池薫さんらに面会を打診していたことが分かった。蓮池さんは「政治利用されたくない」と拒絶、兄の透さんは「パフォーマンスだ」と批判した。〈反貧困を政治に〉市民団体「反貧困ネットワーク」の集会「選挙目前！ 私たちが望むこと」が東京都内で開かれた。非正規労働者や母子世帯など貧困に苦しむ社会的弱者らが、総選挙に臨む政治家に「次の政権でしてほしいこと」を突きつけた。与野党の国会議員も訪れ、同ネットワークの宇都宮健児代表は「ネットカフェ難民など住民票がなくて投票できない人にも光を」と要望。湯浅誠事務局長が「1965年以来行われていない貧困率の測定をし、削減目標を立てて」と求めた。

【8月6日】〈生活保護世帯〉2009年4月の生活保護世帯数（速報値）が前月比1万1,129世帯増の120万3,874世帯となり、12カ月連続で過去最多を更新した。厳しい雇用情勢が続いているのが原因で、高齢者、母子、障害者、傷病者の各世帯を除く「その他の世帯」が増加分の半分程度を占めた。

【8月9日】〈核の先制使用〉麻生太郎首相が長崎原爆忌の式典出席のため訪れた長崎市で記者会見し、核兵器保有国が先制不使用を宣言する構想について「『わたしは先制攻撃しません』と言っても検証する方法はない。先制不使用の考え方は、日本の安全を確保するには、現実的にはいかがなものか」と述べ、否定的な見解を示した。また自民党内に、敵基地攻撃能力の保有の検討を求める声があることに関しては、「日米間の役割分担に関する話は、検討すべきものと考えている」と述べた。

【8月12日】〈つくる会教科書〉東京都杉並区教育委員会は定例会で、2年区立中学23校で使用する歴史教科書として「新しい歴史教科書をつくる会」が中心になって作成した扶桑社版を、賛成多数で採択した。同教委は05年に初めて同社の歴史教科書を採択しており、採択は2度目。

【8月13日】〈集団的自衛権〉麻生太郎首相は報道番組で、

集団的自衛権の行使を禁じている憲法解釈について「日本を守る同盟国のアメリカの艦船が北朝鮮から攻撃を受けたとすれば、自衛艦がそれを防護することを可能にしておくことは大事だ」と述べ、行使を可能にするよう見直すべきだとの考えを示した。

【8月14日】〈つくる会教科書〉東京都教育委員会は2年間、都立の中高一貫校の中学課程や、視覚障害と知的障害を除く特別支援学校中学部で使用する歴史と公民の教科書として「新しい歴史教科書をつくる会」の会員らが執筆した扶桑社版を賛成多数で採択した。委員会は公開され、5人が賛成し、1人が反対した。いずれの委員も発言はなかった。

【8月15日】〈靖国問題〉首相の靖国神社参拝に反対する民主党が、その理由に掲げてきた「憲法の政教分離原則への抵触」を、鳩山代表ら執行部の判断で09年版政策集から削除していたことがわかった。総選挙後の政権交代を見据えて曖昧化したようだ。

【8月22日】〈比例定数削減〉民主党が衆院選マニフェストに掲げる衆院の比例代表定数80削減をめぐり、選挙後に同党が連立政権の相手に想定する社民党のほか、共産党が反発を強めている。社民党の福島瑞穂党首は、「比例削減は国会にいろいろな意見が出てくることを阻み、2大政党だけになる。明確、明快に反対だ」、「民主党に対してははっきり働き掛けていきたい」と述べ、連立政権発足に向けた協議でも取り上げる意向を示唆した。共産党の志位和夫委員長も同日「国民的大闘争を起こす。あらゆる政党との連携で絶対に食い止める」と強調。

【8月24日】〈都議会極右民主党の反乱〉民主党所属の都議会議員が同党の衆院選マニフェストを「偽装マンションのパンフレット」と批判する論文を発表。都議会民主党の土屋たかゆき副団長が月刊誌「WILL」10月号に寄稿したもの。民主党は7月に発表した政策集に、永住外国人への地方参政権付与の方針の維持、選択的夫婦別姓の導入、慰安婦問題への取り組みなどをいったん盛り込んだが、その後削除した。土屋は「国民の目を欺こうとしている。国論を二分する政策を載せれば、有権者の支持が得られないと考えたからだ」とし、その上で「マニフェストを読んで民主党に投票しても、思いもよらなかったような政策が実行される」と指摘した。〈田母神発言〉田母神俊雄元航空幕僚長が選挙中の西村慎吾の応援演説に立ち、広島市で開かれた平和記念式について、「被爆者はほとんどいない」「並んでいるのは左翼」と述べた。被爆者団体は反発している。田母神は演説で、6日に講演で広島市に行ったことに触れ、平和記念式について「並んでいる人は広島市民も広島県民もほとんどいない」「被爆者も、被爆者の家族もほとんどいない」と発言。「左翼の大会なんです、あれは」とし、麻生首相が式であいさつしたことを「マンガです、ほとんど」と評した。田母神は式には出ていない。「広島の人々がみんなそう言っている」と説明。

【8月25日】〈PKO〉政府はPKO協力法に基づき「国連ネパール支援団」で軍事監視活動に当たっている陸上自衛官6人の派遣期限を9月末から来年3月31日まで半年間延長することを決めた。

# 私も一言 93

松浦敏尚 (市民メディアセンター MediR)

## 報道と人権と市民メディア

酒井法子容疑者をめぐる報道は、起訴を目前に控えて(8/26 現在)再びヒートアップの様相を呈している。この種の報道に接する時、日本社会の劣化を見せつけられる感じがして、いつも暗澹たる気持ちを感じる。

罪状やその事実認定は公判の中で明らかにされるべきものであり、警察からの正式発表を踏まえない報道や、推測によって好奇の耳目をひこうとする報道への批判は、これまでも「報道被害」の名で一定の注目を集め、各メディアの自主規制をわずかではあるが促してきたはずだ。しかし今回は、彼

女が有名人であり、報道されている内容が強烈な意外性をともなうためか歯止めが効いていない。

彼女は覚せい剤の所持・使用による覚せい剤取締法違反が疑われているが、凶悪な傷害や殺人、悪質な詐欺などを犯したわけではない。今のところ、対人で被害を与えているという報道も見当たらない。にもかかわらず、彼女は社会的には抹殺されたと言ってもいい状況へと追いやられている。マスメディアを筆頭にしたこの人権感覚の麻痺は、公判前によってたかって死刑を宣告するに等しい行為であるとするべきではないだろうか？ そして死刑の宣告は、「死を受け入れるのだから、謝罪もしないし反省もしない」という死刑制度の矛盾に直面することになる。

私が市民メディアの現場で常に思うのは、今回の報道のような時に、マスメディアには絶対にのぼってこない声を伝えるメディアの必要性だ。彼らの生活の現実、抱えている内面の心理、そうした多様な社会のリアリティというものを、もっと社会的なコミュニケーションの空間に押し上げていくことが求められている。そうしてこそ、感覚麻痺に覆われた生きづらい社会を乗り越えていく突破口が開けるはずだ。

## 集会・行動情報 9/11~9/26

▶9/11(金)『沖縄「自立」への道を求めて』出版記念シンポジウム——いま、沖縄から日本を問う◆新崎盛暉、島袋純、前泊博盛、坂手洋二◆18:30~◆全水道会館[3F/大会議室](JR総武線水道橋駅東口徒歩2分)◆800円◆呼びかけ:高文研(03-3295-3415)、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックほか

▶9/12(土)平和憲法の会・京都2009年度総会◆本山美彦(京都大学)◆13:30~◆洛陽教会[1F/礼拝堂](京阪神宮丸太町駅から西へ徒歩5分)◆800円/学生400円/失業中の方と高校生以下は無料◆主:平和憲法の会・京都(075-822-5035)

■沖縄に基地はいらない ジュゴンの行進!◆15:00集合/15:30 出発予定◆水谷橋公園(中央区銀座1-12-6/地下鉄有楽町線銀座一丁目駅ほか)◆主:辺野古への基地建設を許さない実行委員会(連絡先:沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック 090-3910-4140 ほか)

■派兵国家の20年を問う——派兵Check総括集会◆報告:太田昌国、木元茂夫、池田五律◆18:00~◆文京区民センター[3C/会議室](地下鉄三田線春日駅すぐ)◆800円◆主:派兵チェック編集委員会(fax:03-5275-5989)

▶9/13(日)「天皇即位20年奉祝」やめろ! 9・13集会(部落差別と天皇制)——「連続・大量差別はがき事件」から見える現代の部落差別◆浦本蒼至史◆13:30開場/14:00 開始◆渋谷区笹塚区民会館(京王線笹塚駅徒歩8分)◆500円◆主:「天皇即位20年奉祝」やめろ! 行動(連絡先:全関東単一労働組合気付 03-3863-3433)

▶9/15(火)ピョンヤン宣言7周年のつどい:過去の清算と拉致問題の解決を考える——日朝国交正常化早期実現を!◆蓮池透(元拉致被害者家族連絡会事務局長)、西野瑠美子(「戦争と女性への暴力」日本ネットワーク

[VAWW-NET ジャパン] 共同代表)◆18:30~◆文京区民センター[3A/大会議室](地下鉄都営三田線春日駅すぐ)◆主:「韓国併合」から100年 真の和解・平和・友好を求める2010年運動(略称:2010年運動)◆連絡先:日韓民衆連帯全国ネットワーク(03-5684-0194)ほか

▶9/15(火)~27(日)戦後オキナワ あの日・あの時「あんやたん」写真展◆9:30~17:00(入場は16:30まで/最終日は15:00まで)◆月曜休館◆名古屋市博物館[3F/ギャラリー/第7室](名古屋市営地下鉄桜通線桜山駅下車4番出口徒歩5分)◆入場無料◆主:同写真展実行委員会(Fax:052-221-5244)

\*記念講演会:9月19日(土)15:00~◆博物館講堂にて◆屋良朝博(沖縄タイムス論説委員)

\*9月29日(火)~10月17日(土)まで、「戦争と基地とくらし 沖縄の戦後64年」をテーマに、引き続き「ピースあいち」でも展示を行います。

詳細▶<http://www.peace-aichi.com/index.html>

▶9/22(火・休)60年安保から50年——今こそ日米安保条約を問う!◆講師:武藤一羊(ピープルズ・プラン研究所)、日隅一雄(沖縄密約情報不開示処分取り消し請求訴訟弁護団)◆17:45 開場/18:15 開始◆文京区民センター[2A](都営三田線春日駅すぐ)◆800円◆主:新しい反安保行動をつくる実行委員会(Fax:03-5275-5989)

▶9/26(土)宇宙平和週間 首都圏イベント——新政権で「防衛大綱」はどう変わるか(仮)◆青井未帆(成城大学)/各地からの報告も予定◆13:30 開場/14:00~◆アカデミー茗台[7F/学習室A](地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅すぐ/文京区春日2-9-5)◆700円◆主:「防衛大綱」を問う集会実行委員会◆連絡先:ピープルズ・プラン研究所(電話:03-6424-5748/Fax:03-6424-5749)